

**著書紹介 野田尚史, 高山善行, 小林隆 編 『日本語の配慮表現の多様性-歴史的変化と地理的・社会的変異-』**

著者	野田 尚史
雑誌名	国語研プロジェクトレビュー
巻	5
号	2
ページ	96-97
発行年	2014-10
URL	<a href="http://doi.org/10.15084/00000778">http://doi.org/10.15084/00000778</a>

野田尚史, 高山善行, 小林隆 編

『日本語の配慮表現の多様性  
—歴史的変化と地理的・社会的変異—』

2014年6月 くろしお出版 A5判 iv+319ページ 3,700円+税



野田 尚史

## 1. この本の目的

この本は、近年、日本語研究で注目されるようになってきている「配慮表現」について、古代語から現代語までの歴史的変化と、現代の日本各地に見られる地理的・社会的変異という2つの観点から、その多様性を追究することを目的としている。

配慮表現というのは聞き手や読み手に悪い感情を持たれないようにするために使う表現である。この本では、すでに研究の蓄積が十分ある敬語だけではなく、「すみませんが、」のような前置き表現や、「m(\_)\_m」のような顔文字など、さまざまな表現を取り上げている。

## 2. この本の構成

この本は次のような5部構成で、合計16本の論文が収められている。

### 第1部 配慮表現の多様性の概観

配慮表現の多様性をとらえる方法と視点 (野田尚史)

配慮表現の歴史的変化 (高山善行)

配慮表現の地理的・社会的変異 (小林隆)

### 第2部 古代語の配慮表現

奈良時代の配慮表現 (小柳智一)

平安・鎌倉時代の依頼・禁止に見られる配慮表現 (藤原浩史)

平安・鎌倉時代の受諾・拒否に見られる配慮表現 (森野崇)

平安・鎌倉時代の感謝・謝罪に見られる配慮表現 (森山由紀子)

### 第3部 近代語の配慮表現

室町・江戸時代の依頼・禁止に見られる配慮表現 (米田達郎)

室町・江戸時代の受諾・拒否に見られる配慮表現 (青木博史)

室町・江戸時代の感謝・謝罪に見られる配慮表現 (福田嘉一郎)

明治・大正時代の配慮表現 (木村義之)

### 第4部 現代語の配慮表現の地理的・社会的変異

現代語の依頼・禁止に見られる配慮表現 (岸江信介)

現代語の受諾・拒否に見られる配慮表現 (尾崎喜光)

現代語の感謝・謝罪に見られる配慮表現 (西尾純二)

## 第5部 現代語の配慮表現の多様性

談話の構成から見た現代語の配慮表現（日高水穂）

携帯メールにみられる配慮表現（三宅和子）

### 3. この本の意義

この本の意義は、次の3点にまとめられる。

- (1) 歴史的変化と現代の地理的・社会的変異をできるだけ同じ枠組みで分析している。
- (2) 言語の体系や構造より言語の運用を重視している。
- (3) コーパスを使うのが難しい研究のモデルを示している。

(1) は次のようなことである。日本語では、歴史的変化の研究も現代の地理的・社会的変異の研究も盛んであるが、互いに研究方法が違い、共同研究をすることはほとんどなかった。この本は、両方の分野の研究者が10年近く合宿や公開シンポジウムを繰り返し、できるだけ同じ枠組みで分析を行うようにした共同研究の成果である。

(2) は次のようなことである。言語学は伝統的には音声・音韻や語彙、文法など、言語の体系や構造を明らかにする研究が主流だった。しかし、現在では、談話研究や語用論など、これまで十分に行われてこなかった言語の運用についての研究も盛んになってきている。この本も、言語の体系や構造より言語の運用を重視したものになっている。

(3) は次のようなことである。コーパスが整備されてきた現在、研究にコーパスを使うことは不可欠になってきている。しかし、この本では配慮という意味・機能から出発し、それを表す言語形式を探すとという方向で研究を行ったため、コーパスは限定的にしか使えなかった。その結果、コーパスを使うのが難しい研究のモデルを示すことができたと考えられる。

### 4. この本の発展性

この本は多くの人に読んでもらえるように、さまざまな工夫がされている。たとえば、狭い研究分野独特の用語を避けるとか、江戸時代以前の例文にはすべて現代語訳を付けるといったことである。日本語以外の研究者を含め、さまざまな研究分野の人にこの本を読んでもらいたいと考えたからである。この本を読んだ人には、配慮表現やそれに関連した研究をさらに発展させていってもらいたい。研究すべきことはまだたくさん残っている。

## 野田 尚史 (のだ・ひさし)

国立国語研究所日本語教育研究・情報センター教授。博士（言語学）（筑波大学）。大阪府立大学名誉教授。大阪外国語大学助手、筑波大学講師、大阪府立大学助教授、同教授を経て、2012年4月より現職。

主な著書・論文：『「配慮」はどのように示されるか』（共編著、ひつじ書房、2012）、『日本語教育のためのコミュニケーション研究』（編著、くろしお出版、2012）、『なぜ伝わらない、その日本語』（岩波書店、2005）、『コミュニケーションのための日本語教育文法』（編著、くろしお出版、2005）、『日本語の文法4 複文と談話』（共著、岩波書店、2002）。受賞：第4回日本語教育学会奨励賞（日本語教育学会、2006）。

社会活動：日本語学会理事、日本語教育学会学会連携委員長、日本語文法学会評議員、日本語学会評議員、言語系学会連合運営委員。